真宗高田派本山　専修寺

# 高田本山だより

令和５年 夏号
134

高田本山 HP

令和５年夏号（第 134 号）/ 発行・令和５年７月 19 日 /〒514-0114　三重県津市一身田町 2819 番地　TEL 059-232-4171 www.senjuji.or.jp

## 連日満堂の奉讃法会

本年、五月二十一日より二十八日まで、開山親鸞聖人御誕生八百五十年立教開宗八百年中興真慧上人五百年忌聖徳太子千四百年忌の奉讃法会のお勤めやお説教が行われました。

また、記念事業の新宝物館『燈炬殿』も開設され、多くの見学者で賑わいました。

このたびの奉讃法会は新型コロナウイルスの流行で開催にむけ困難を極めましたが、各寺院と共に多くの檀信徒のご協力により、連日満堂のご参拝をいただきました。そしてこの法会を機縁として、よりお念仏のいわれを聞きひらいてゆきたいものです。

# 満堂のご参拝をいただき

**開山親鸞聖人御誕生八百五十年**
**立教開宗八百年**
**中興真慧上人五百年忌**
**聖徳太子千四百年忌**

専修寺チャンネル

高田本山専修寺では5月21日から28日まで開山親鸞聖人御誕生８５０年奉讃法会をはじめ、４つの奉讃法会が厳修され多くの参拝者が参拝されました。

各日11時から奉讃法会のお勤めやお説教が行われ、御影堂は連日満堂、また本寺を含む七別院にライブ配信も行われました。お勤めとお説教は、Youtube の専修寺チャンネルにてご覧いただけます。

## 奉讃法会を終えて

特別法要事務局長　押小路蓮円

この度は奉讃法会が無事に終了しましたこと誠にありがとうございました。

各ご寺院、檀信徒の皆さまにおかれましては奉讃法会の懇志や協力にご尽力賜り厚く御礼申し上げます。

奉讃法会のため特別法要事務局が発足したのが２０１９年のことです。その後すぐに新型コロナウイルスの世界的な流行があり、奉讃法会の開催も見通しがつかない状況で各寺院や檀信徒の皆さまへの十分なご説明が出来ませんでした。

そんな状況でも新型コロナウイルスが終息して、大切な奉讃法会が開催できることを願い、特別法要事務局は準備を進めてまいりました。

具体的には奉讃法会の記念事業である宝物館の建設、法嗣殿就任奉告法会、別院ネットワークシステムの構築など行いました。

宝物館（燈炬殿）では奉讃法会期間中、１日１０００人以上の見学者が来館されました。

その宝物館の名称である「燈炬殿（とうこでん）」にありますように、この奉讃法会が困難な世の中にともしび（燈炬）となるきっかけになるべく、推進いたしました。

開山親鸞聖人御誕生８５０年の記念すべき大切な奉讃法会に携われたことは生涯の宝物です。

この奉讃法会にご協力いただきました方々、参拝いただきました皆様に改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。

夜間まで境内は賑わう

# 奉讃法会結果報告

それでは日別に奉讃法会の様子を報告いたします。

まずは、奉讃法会の前日である20日には稚児行列（稚児練り）が行われ、３００名のお子さんとご家族がご参加、五月晴れのごとく青空が広がり、雅楽が鳴り響くなか稚児衣装を纏（まと）った子どもたちが元気いっぱいに高田本山と寺内町を練り歩きました。

ほかにも法嗣殿就任奉告法会、宝物館竣工記念式典などが行われました。

宝物館竣工式

21日は親鸞聖人がお生まれになられて８５０回目の誕生日となり、奉讃法会初日となります。11時からの奉讃法会の勤行後には法主殿より御親教がございました。御親教のなかで「コロナ過で危ぶまれたなかで、親鸞聖人御誕生８５０年の記念すべき奉讃法会を迎えることができたのは大きな喜びです。」と奉讃法会の意義と高田派の展望についてのお言葉がありました。

法主殿より御親教

午後は著名な書家である金澤翔子様の揮毫と、お母さまである金澤泰子様の講演がありました。

揮毫された「飛翔」の文字に高田派の発展への想いが込められており、講演では翔子様とのかかわりの中で得られた、母親としての喜びをお話しされました。

金澤翔子様の揮毫「飛翔」

22日は平日にもかかわらず全国から団体参拝が多く、堂内外に人が溢れておりました。奉讃法会では参拝者も共に正信念佛偈を唱和し響き渡りました。

午後からは観世流の能公演がありました。御影堂の厳かな雰囲気の中、第一部「高砂」、第二部「羽衣　和合之舞」の演目が行われ、終わるたびに拍手が鳴りやみませんでした。

23日は高田派の鑑学である栗原

栗原廣海師の特別講演

廣海師による特別講演「『なもあみだぶつを聞く』ということ」がございました。

御影堂に多くの参拝者がご聴聞に訪れておられました。高田本山のYoutubeに動画のアーカイブがございますのでどうぞ一度ご覧ください。

24日は御参廟がございました。例年であれば21日の親鸞聖人の降誕会で行われますが、特別に奉讃法会期間中の24日に行われました。今回から法嗣殿も行列に参加されております。

雲一つない行列日和の天候で、参拝や撮影に来られた方が多数いらっしゃいました。

お荘厳転換のため午後からの行事はなく、普段は閉まることがない千本障子が閉められ、普段とは違った光景に参拝された方は驚きとともに、映画のロケ風景再現に感動される方も多数いらっしゃいました。

25日からは中興真慧上人500年忌奉讃法会です。

午後の行事は駒田早代様による津軽三味線演奏会です。昨年のお待ち受け法会で演奏していただいた実績もあり、津軽三味線の力強い音色と迫力に、たくさんのお参りと立ち見も見受けられました。

26日は仏像イラストレーターとして有名な田中ひろみ様の講演です。

「仏像の楽しい見方」という題目はスライドを用いたもので、興味深く仏像に対する新しい認識を得ることが出来ました。

27日は朝から御参廟があり、午後からは大阪にあります和宗総本山、四天王寺の宗務総長　南谷恵敬師の講演です。

聖徳太子信仰の飛鳥時代から現在までの流れと伝統についてお話

御参廟の行列

津軽三味線の演奏会

椰野明仁師による琵琶を弾きながらの『聖徳太子絵伝』

小林玲子様の『一光三尊仏絵伝』の絵解き

新宝物館「燈炬殿」もオープン

がございました。

また、その後は高田学苑の生徒による演奏会が行われました。

箏曲部、音楽部、吹奏楽部が放送部の司会により奏でられました。

如来堂におきましては三河すーぱー絵解き座座長、梛野明仁師による『聖徳太子絵伝』の、琵琶を弾きながらの絵解きがありました。

高田高校演奏会

28日は聖徳太子1400年忌奉讃法会です。

午前中から高田幼稚園・高田保育園・コーラス海による仏教讃歌の集いがありました。

その後は如来堂から太子堂まで行列、奉讃法会のお勤めとお説教。午後からは奈良にあります法隆寺の管長　古谷正覚師による講演「聖徳太子のこころ」と白子ウインドシンフォニカによる演奏会がございました。如来堂においては長野郷土史研究会副会長、小林玲子様より、高田派に伝わります「一光三尊佛絵伝」の絵解きがありました。

白子ウインドシンフォニカの演奏

その他は21日から27日までの間、夜は竹灯りが行われ、雅楽の演奏やソニドデルビエントによる馬頭琴などの演奏が行われ、いつもとは異なる幻想的な雰囲気の高田本山を体感いただけました。

## 布教使主催　布教大会を終えて

昨年の夏ごろ、奉讃法会を執り行うにあたって、布教使として何かできることはないだろうかと、有志の方々数名で集まったのが、この法話大会と大講堂説教でありました。当初の想定を遙かに越えて、今回お集まりいただきました説教師は二十七名にも及び、無事最終日を終えることが出来ました。ひとえに、説教師の皆さま並びに、ご聴聞いただきましたすべての方々のおかげであります。

そもそも建仁辛の酉の暦（一二〇一）、一人の僧侶が摂取不捨の利益にあずかり、その感動を皆に伝えんとして始まったことでありました。その歩みは、有縁の人々への伝道から始まり、やがては後に生まれんものへと書物になりました。

それから八〇〇年、その僧侶、御開山聖人が人生をかけて残された感動は、真宗高田派本山専修寺奉讃法会という形となって今この場所をもたらしてくださいました。

思えばお釈迦様をはじめ、七高僧や聖徳太子、真慧上人そして数千、数万の諸師方がその人生をとして伝え届けてきた、一つなぎの人生、いわばいのちの物語でありました。

今後もこの法縁の喜びを護り続けていきたいと切に念じ上げます。

合掌

布教使事務局

■連載［第12回・最終回］

# 『『なもあみだぶつ』を聞く」ということ

高田派鑑学・誓元寺住職
栗原廣海

## 一、如来の二つの回向

親鸞聖人は、主著である『教行証文類』の本文の冒頭に次のように述べておられます。

つつしんで浄土真宗、すなわち浄土の真実の教えをうかがうと、阿弥陀如来の本願のはたらきとしての二種の回向があります。一つには往相の回向、二つには還相の回向です。往相の回向には、真実の教と、行と、信と、証とがあります。

このお言葉には、お念仏の教えの肝心要、真髄が端的に述べられています。つまり、お念仏とは、つきつめれば、往相・還相という、阿弥陀如来の二つの回向につきると言われるのです。『教行証文類』は、お念仏について、数多くの経論からの引用文や聖人ご自身のお言葉が述べられた大著なのですが、そのすべては、この二つの回向におさまると言われているのです。そしてその大半が往相の回向についての記述に費やされています。

では「回向」とはどういうことでしょうか。回向は「回らし向ける」という意味で、本来は、自分の修めた善行の功徳を他の人びとに回らし向けて、他の人びとにも功徳をもたらし、ともに悟りを得るように期することです。自分一人の悟りではなく、他のすべての人びとの救いを第一に目指す大乗仏教の行者の、もっとも大切な行なのです。

それに対して親鸞聖人は、「回向」はすべて阿弥陀如来のはたらきであるとされたのでした。それが右のお言葉です。「往相」というのは、私どもが浄土に往生するということ、「還相」というのは、浄土に生まれたら、再びこの娑婆世界に還ってきて、人びとを救うはたらきをすることです。この両方に必要な智慧や徳のすべてが、阿弥陀如来によって私どもに回らし向けられている。つまり、私どもの往相・還相に必要なすべてを、阿弥陀如来によってこの身に賜っているということが述べられているのです。

これまで、本稿では「賜る」という言葉を多く用いてきましたが、「賜る」ということは、「回向される」ということだったのです。

## 二、他力回向の仏教

ここで聖人によって明らかにされていることは、お念仏は「他力の仏教」ではなく、「他力回向の仏

御本山御用達
鍵長法衣仏具店
京都市下京区油小路正面東入（中央局区内）
電　話　（075）371-0854・8181～2番
ＦＡＸ　（075）344-2701番
振替口座・0170-3-972番　郵便番号600-8344

創業1586年
松井建設株式会社
取締役社長　松井隆弘
執行役員支店長　野村守宏
本　社　東京都中央区新川一丁目17番22号　☎03-3553-1150
名古屋支店　名古屋市中区栄五丁目28番12号　☎052-249-4771

教」であるということです。「他力」というのは、「仏の願いである本願の力」のことですから、本願力に助けられて浄土に生まれるという他力の教えは、法然上人をはじめとして多くの祖師方が説いておられます。それらの祖師方の教えと親鸞聖人の教えの違いは、聖人は、「他力回向」による救済を明らかにしてくださったことなのです。つまり、私どもの仏道に関するすべてが阿弥陀如来の本願力によって回向されている、仏道に関するすべてを阿弥陀如来から賜っているのであって、賢しらに私どもが付け加えるものはなにもない。私どもが回向し、本願力に助けられて往生するのではなく、本願力が私どもの往相と還相について全面的に責任をもって面倒を見、それを果たし遂げてくださると言われているということです。

「『なもあみだぶつ』を聞く」ということは、阿弥陀如来の、「二種の回向を受け取れ」との喚び声・要求を、私どもがよろこんで受け入れ、そのはたらきにすべてをおまかせしてゆくということです。

## 三、還相回向

私たちは、ともすると「往相」の方に多くの関心を向け、「還相」に目を向けることを忘れてしまいがちです。しかし、お浄土にまいり、安楽を得させていただくことだけに目を向けて、人びとを利益し、救うはたらきを忘れてしまうなら、それは大乗の仏道ではありません。

親鸞聖人が「鸞」の字をいただかれるほど親しみ、尊崇された曇鸞大師は、著書の『浄土論註』のなかで次のように説いておられます。

浄土にまいらせていただく（往相）のも、浄土から再びこの娑婆世界に還ってくる（還相）のも、ともに人びとの苦しみを抜いて、生死の海を渡らせるためである。

つまり、還相はもちろん、浄土にまいらせていただく往相も、自分が苦しみのない安楽をむさぼるためではなく、他の人びとを救い導くためであると言われているのです。そしてこれこそが、利他を旨とする大乗仏教の真実の仏道であるということです。

聖人は、『浄土和讃』「讃阿弥陀仏偈和讃」の第十八首に、

安楽浄土にいたるひと
五濁悪世にかえりては
釈迦牟尼仏のごとくにて
衆生利益はきわもなし

と詠われています。阿弥陀如来の往相回向のおはたらきによって苦しみのない安楽な浄土に生まれた人は、如来の還相回向のおはたらきによって再びこの煩悩に満ちた娑婆世界に還り、浄土から還相して仏教を開き人びとを導かれた釈尊のように、人びとを導き、利益をもたらすこと限りがないと言われているのです。

「弥陀のよび声『なもあみだぶつ』を聞く」ということは、阿弥陀如来の二つの回向によって、大乗仏教の完全最高の仏道をこの身に賜るということなのです。

日本古来より伝わる土壁の家づくりと伝統建築の保護・再生
土壁・漆喰・竈の伝統技術を守り継承していきます
蒼築舎
Sochikusya Co.,Ltd
〒510-0031 三重県四日市市浜一色町 16-35
TEL 059-332-1444　FAX 059-344-2627
E-mail : souchikusha@gmail.com　URL : https://tutikabe.net/

法衣・仏具製造及び販売
井筒法衣店
代表取締役社長 今岡規代
●本社
600-8468
京都市下京区堀川通
新花屋町角（西本願寺前）
Tel 075-351-1234
0120-075-720
Fax 075-341-7905
●東京店
160-0008
東京都新宿区四谷
三栄町十四番地三ノ一
Tel 03-3358-1500
Fax 03-3359-8902
オンラインショップを開設しました

# 聖徳太子シリーズ⑦
# 御開山 親鸞聖人と聖徳太子 3

## 真宗寺院のすがた

一般的な真宗寺院の本堂の誇るべき特徴として、広々とした外陣（大間）があげられます。

そして内陣の特徴の一つとして、その余間には、七人の浄土教の先達三国七高僧影像が描かれたお軸とともに、聖徳太子が並んで安置されていることも云われます。絵画がお木像である寺院もあり、お厨子内にご安置されていたり、境内に寺院の起源とする太子堂が別堂としてある寺院も数多くあります。

ある檀信徒様宅の御佛壇の御本尊左脇に御安置される聖徳太子尊像。
高田派檀信徒様宅の御佛壇にも聖徳太子像が御安置されている場合があります。
それほど真宗において尊い存在なのです。

伊勢地方の真宗発祥の地ともいわれる鈴鹿市三日市の真宗高田派太子寺は聖徳太子十六歳ご孝養等身尊像を御本尊としています。

また、真宗寺院では真宗高田派に限らず、「聖徳寺」「上宮寺」「勝曼寺」など聖徳太子に関わる寺号の寺院も各地にみられます。

親鸞聖人は約二十年間の東国布教においても各地の太子堂やその他小堂を布教所として利用されました。

帰洛の際には三河国（愛知県）矢作桑子の柳堂（太子堂・現妙源寺内）に逗留され、説法ご教化によって、多くの人々が帰依されました。そのことが三河の念佛の源流となっています。三河地方の真宗寺院の古刹には四種絵伝（善光寺如来絵伝、聖徳太子絵伝、法然上人絵伝、親鸞聖人絵伝）が伝えられてあり、初期真宗道場では太子堂にて四種絵伝を定期的に奉掛して、寺僧が老若男女に目で見て耳で聞く斬新な絵解き説法に節をつけ、泣かせ笑わせながら語り聞かせたと云われています。

親鸞聖人は聖徳太子を佛教興隆の恩人として敬い慕われました。親鸞聖人の教えをお聴聞する真宗寺院においては、聖徳太子の存在は必須であります。

真宗寺院の広い外陣は、一人でも多くの檀信徒様がその場に座り、内陣の聖徳太子、七高僧、歴代上人、そして親鸞聖人を拝し、御尊前に向かって「南無阿弥陀佛」と称名させていただく専修念佛の御教えを、凡夫である私にとっての真実の依り処として、生涯かけてお聴聞させていただくための念佛道場であります。はかり知れない数多くの方々に護り伝えられてきた、歴史と伝統のよろこびとやすらぎの集会所が真宗寺院のすがたであります。

（教学院第三部会）

## 「無明長夜の燈炬なり」

# 宝物館の役目

今年五月、専修寺では開山親鸞聖人御誕生八百五十年をはじめとする奉讃法会が執り行われ、その記念事業の一環としてお同行の皆様のご支援により宝物館が完成、五月二十日竣工落成式を迎えました。

法会に先立って、国立京都博物館と三重県総合博物館で親鸞聖人を主題の企画展が開催されましたが、いずれの博物館でも親鸞聖人筆の『西方指南抄』を初めとする専修寺所蔵の法宝物が広大な展示場を埋め尽くし、聖人の教えを伝える法宝物のうち四割が高田派の所有であることを実感できる展覧会でした。

これらの法宝物は、日々の管理はもとより江戸時代には第十五世堯朝上人が切腹されるなどの覚悟をもって守られてきたものであることを忘れるわけにはまいりません。これら法宝物を守るため、約五十年前に宝物館が作られました

新宝物館　燈炬殿（とうこでん）

親鸞聖人左向御影（宝物館で展示中）


**永田文昌堂**

新刊

①親鸞の念仏三昧論

武田　龍精著

定価2,750円（税込）

法照禅師の「念仏三昧これ真宗なり」の著名なる一句について、親鸞聖人による真宗の真実義が念仏三昧であることを解明せんとした必読の一冊。

新刊

②阿弥陀仏の願いと信心

ー大宇宙世界の時間と空間を超えてー

掬月　即勝著

定価2,640円（税込）

浄土真宗で最も大切な「阿弥陀仏の願い」（本願）と「他力の信心」（真実の信心）を中心に、筆者自身の信心とお念仏の体験を踏まえて述べた実践的な解説書。ほとんどの仏教用語に振り仮名を付け、初心者の方でも読みやすい一冊。

京都市下京区花屋町通西洞院西入■TEL 075-371-6651■FAX 075-351-9031



**お寺とともに地域をつくる。**

人口減少社会へ突入した地域に必要なのは「お寺」だと思う。

対話から生まれる情報発信やプロモーションをサポートします！

三重に暮らす・旅するWEBマガジン

OTONAMIE

otonamie　＼14,500フォロワー突破！／

mail otonamie@gmail.com

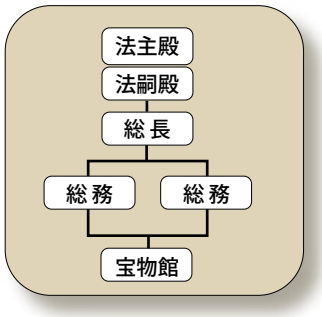
tel 059-268-3538（壽印刷工業株式会社）

お寺の実績紹介記事

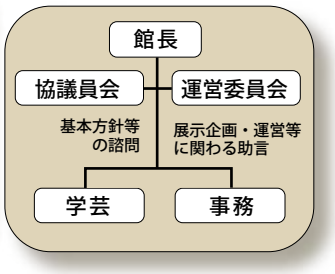
が、残念ながら老朽化しておりました。

新たに完成の宝物館は、「無明長夜（むみょうじょうや）の燈炬なり」という『正像末法和讃（しょうぞうまっぽうわさん）』三十五首目の一節にちなんで「燈炬殿（とうこでん）」と名付けられました。宝物館が親鸞聖人の教えにふれ、私たちの心の闇を「智慧のともしび」で破ろうとする阿弥陀如来の光明に照らされる場でありたいとの、願いが込められています。

宗務院内での位置づけ




宝物館内組織




宝物館には、収蔵庫、展示室、VRシアターがおかれています。とりわけ法宝物を安全かつ安定した環境で保存し展示できるように、収蔵庫、展示室は高水準な仕様となっています。これは宝物館をいつでも国宝や重要文化財を展示できる、公開承認施設としての文化庁の許可を目標として、設備面での条件を満たしたものです。

公開承認施設になるためには、施設面だけでなく、館長、常勤の学芸員2名を置くこと、また5年間に3回以上の企画展の開催などの条件があります。これらをもとに組織づくりや、人員配置、規定の策定等を行っております。

立派な器を優れた教えの光で満たすためにも、今後ともお同行の皆様お誘いあわせの上、ご来館ならびに変わらぬご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

宝物館館長　**大野照文**

## ～幾多の苦難を乗り越えて～

### 真宗高田派専修寺

# 福井別院

真宗高田派専修寺　福井別院の源流は古く江戸時代の中頃まで遡り、明治の初期まで福井市の仙福寺（現：福井市足羽）に出張所（高田総会所）としてありました。

正保2年（1645年）斎藤忠知の次男の春智が出家して玄忠と名乗り、本山専修寺の近くに恵光院を建立しましたが、二世法輪坊春山の時、専修寺第十六世堯圓大僧正の長男、梅溪院堯光大童子の位牌地と定められ梅溪寺と改称しました。その後、恵照、顕了、恵覚、浄覚、清徹、孝成が継承しましたが、明治37年（1904年）福井県の許可を得て、一身田より福井市宝永上町に梅溪寺は移転しました。

これより先、明治5年（1872年）本山専修寺は福井市館町に寺務出張所（これは江戸時代開設の高田総会所を改名したものです）を設立しました。その後、明治14年（1881年）に福井市毛矢町に移りましたが、足羽川改修工事のため再び移転することとなり明治38年（1905年）福井市宝永上町にある梅溪寺に統合した後、

福井別院と改称しました。

それ以来、長らく多くの人々に親しまれてきた福井別院ですが、最大の苦難が訪れます。第二次世界大戦中の昭和20年（１９４５年）7月19日の福井空襲によって福井市は焦土と化し、福井別院も全てが焼失しました。その後、仮の本堂が建立されたのですが、昭和23年（１９４８年）福井地震により再び倒壊焼失してしまいました。

震災後、福井県真宗高田派寺院、高田派檀信徒の支援を戴き福井市宝永町の新たな地（福井市神明神社の隣）に移転新築され、二度も未曾有の大災害をうけた福井別院はようやく立ち直ることができました。

しかし、復興した福井別院の環境も時代とともに変遷していきます。昭和50年頃から自家用車の普及に伴い駐車場が不足しはじめ、また、建物の老朽化が目立ちはじめ新築再建の要望が日増しに高まってきました。

その後、移転先も見つかり、再び福井県真宗高田派寺院、高田派檀信徒の絶大なる支援を戴き、ここに再建の声が上がって以来、十余年にして、福井市花堂南の地に待望の伽藍が完成し、昭和63年5月29日、法主猊下御親修の下、落慶法会が盛大に厳修されました。

現在、福井別院は福井県高田派寺院、檀信徒の皆様に支えられ、また、花堂の地域に根ざした寺院として活動しております。

近年は、多くの方々に福井別院のことを知って頂くためにホームページを充実させており、また、インターネットを活用して檀信徒の皆様の多くの声の収集、各寺院への情報発信なども行っています。

伝統を守りつつ、また、新しいことも取り入れ、各寺院、檀信徒の皆様、そして、地域の方々に寄り添った活動をしていき、歴史ある福井別院を次の世代へつなげていくため努力する所存でございます。

昭和 10 年 4 月 29 日　一光三尊佛御開扉

平成 12 年 3 月 18 日 一光三尊佛御開扉

法主殿をお迎えしての落慶法会

檀信徒で溢れる福井別院本堂

**真宗高田派専修寺　福井別院**
**輪番　松木光仁**

［参考資料］
「髙田の寺々」真宗高田派宗務院
「神殿大観」　安藤希章

こんな行事がありました

# 新門様　法嗣殿就任奉告法会

奉讃法会の前日、20日には法嗣殿就任奉告法会が行われました。七条袈裟をご着用され奉告法会に臨まれた新門様のお姿に、たくさんの参詣者は清々しい喜びに包まれ、お念仏の声が湧き上がりました。

## 行事案内

- 第九十七回仏教文化講座＝八月一日～五日
- 歓喜会＝八月十四日～十六日
- 仏教保育本山合同参拝＝九月二十二日
- 第二十九回法話発表会＝九月七日
- 讃佛会＝九月二十日～二十六日
- 第四十二回坊守・婦人会合同研修会＝未定
- 第四十七回住職補任研修会＝十月八日～九日
- 第二十八回教学院研究発表大会＝十月三十一日
- 納骨堂法会＝十一月三日～四日
- 秋法会＝十一月五日～十日
- 資堂講法会＝十一月八日～十日
- 中興上人御正当＝十二月八日～十日
- 小学生教化合宿＝未定

## 護持会による記念の植樹も

また同日、奉讃法会の記念として護持会の寄贈による、三葉松の記念植樹が行われました。かつてここには樹齢１００年を超える三葉松がありました。五月晴れのもと、更なる発展への期待を象徴するかのように若葉が輝いていました。

寺院名

## 第 97 回仏教文化講座

と　き：8月1日(火)～5日(土) 午前９時～正午迄（但し、初日は９時 30 分より開講式）
ところ：高田会館ホール（高田本山）

| 日程 | 講　師 | | 講　題 |
|---|---|---|---|
| 8月1日(火) | 法　主　殿 | | 御　親　講 |
| 8月2日(水) | 東北大学大学院<br>文学研究科教授 | 佐藤 弘夫先生 | 墓のゆくえ<br>ー変動する日本人の死生観ー |
| 8月3日(木) | 龍谷大学文学部<br>真宗学科教授 | 鍋島 直樹先生 | 親鸞聖人の死生観<br>～人生の終末・心の救い～ |
| 8月4日(金) | 早稲田大学<br>非常勤講師 | 柳澤 正志先生 | 親鸞聖人と天台浄土教 |
| 8月5日(土) | 仏教教育研究センター研究員<br>龍谷大学非常勤講師 | 栗原 直子先生 | 真慧上人から江戸時代へ<br>～学山高田の歴史をたどる～ |